

INFORMATION

•HAKUHODO•

博報堂 広報室

Corporate Public Relations Division

Tel:03-6441-6161 Fax:03-6441-6166

www.hakuhodo.co.jp

2019年7月10日

7月24日、雑誌『広告』リニューアル創刊。
—全体テーマは「いいものをつくる、とは何か？」—

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸、以下博報堂）が発刊している雑誌『広告』は、1948年に広告文化の創造と発展を目的に創刊された雑誌です。数年に一度、編集長の交代とともに全体テーマや装丁、編集体制の一新を図っています。

この度、プロダクト開発に特化した博報堂のクリエイティブチーム「monom（モノム）」を率いるクリエイティブディレクター／プロダクトデザイナーの小野直紀が新しく編集長を務めることとなり、7月24日（水）にリニューアル創刊号を発刊いたします。

リニューアルにあたり設定した全体テーマは「いいものをつくる、とは何か？」。
自らも“つくり手”として、ものづくりに取り組む小野が、ものづくりを取り巻く様々な常識や慣習、いま起きている変化に向き合い、「いいものをつくる、とは何か？」という問いを思索する「視点のカタログ」として全面リニューアルを行います。

リニューアル創刊号の特集は「価値」。ものが溢れるこの時代に、本当に価値あるものとは何なのか、これから価値あるものをどう生み出していけばいいのか。「いいものをつくる、とは何か？」という問いを思索する出発点として、「価値」についての様々な視点を投げかけていきます。

今回のリニューアルにあたり、雑誌づくりのパートナーともいえるアートディレクター／デザイナーを、電通の上西祐理さん、フリーランスで活躍する加瀬透さん、牧寿次郎さんの3者に引き受けいただきました。志を同じくする仲間として、ともに雑誌『広告』づくりに取り組んでいただきます。

また、編集長の小野によるリニューアルにあたっての巻頭メッセージをnoteにて先行公開いたします。
<https://note.kohkoku.jp/n/nda28d1c21b3f>

新しくなる『広告』の動きに、ぜひご注目いただけますと幸いです。

*リニューアル発刊を記念したトークイベント開催を予定しています。（詳細は別紙ご参照ください）

【雑誌『広告』】

販売：全国の書店やセレクトショップ等 * 詳細は発売日に『広告』ホームページに掲載

発行時期：不定期刊

価格：特集テーマや装丁により変動 * リニューアル創刊号の価格は発売当日にご案内します。

雑誌『広告』ホームページ：<https://www.kohkoku.jp/> note 公式アカウント：<https://note.kohkoku.jp/>

【『広告』リニューアル創刊記念イベントのお知らせ】

<第1弾>

『暮しの手帖』編集長 澤田康彦 × 『広告』編集長 小野直紀

～生活をとりまく「価値あるもの」へのまなざし

「一人一人の暮らしがいちばん大切」をコンセプトに、70余年ていねいで美しい暮らしのあり方を提案し続けてきた『暮しの手帖』。その編集長である澤田康彦氏をゲストに迎え、『広告』編集長の小野とともに生活をとりまく「価値あるもの」について、等身大の視点で探っていきます。

[日時] 7月27日 14:00～15:30 (13:30開場)

[会場] 恵文社一乗寺店（京都府京都市左京区一乗寺払殿町10）

[定員] 50名 [入場料] 1000円 (1ドリンク付き)

[申し込み方法] 恵文社一乗寺店の店頭または下記ウェブサイトより

<http://www.cottage-keibunsha.com/events/20190727/>

<第2弾>

文化人類学者 松村圭一郎 × 『広告』編集長 小野直紀

～文化人類学は「ものの価値」を再構築できるか

『うしろめたさの人類学』(ミシマ社)や『文化人類学の思考法』(世界思想社)などの著書・編著で知られ、「すべての物事は再構築できる」という“構築人類学”を提唱する文化人類学者・松村圭一郎氏。

「ものの価値とその再構築」について『広告』編集長の小野と様々な角度から語り合います。

[日時] 7月29日 19:00～20:30 (18:30開場)

[会場] 青山ブックセンター本店（東京都渋谷区神宮前5丁目53-7）

[定員] 50名 [入場料] 1500円

[お申し込み] 青山ブックセンターの店頭または下記ウェブサイトより

<http://www.aoyamabc.jp/event/kohkoku/>

<第3弾>

映画監督 塚本晋也 × 『広告』編集長 小野直紀

～「価値あるもの」を生み出し続けるために

『鉄男』『野火』『斬、』など数々の衝撃作を世に送り出してきた塚本晋也監督。自ら資金を集め、脚本、撮影、出演まで行い、作品づくりに人生をかけ、全精力を注ぐその姿に感銘を受けた『広告』編集長の小野が、“つくり手”としていかに「価値あるもの」を生み出し続けるかを問いかけます。

[日時] 7月31日 19:00～20:30 (18:30開場)

[会場] 無印良品 銀座 6F (東京都中央区銀座3丁目3-5)

[定員] 50名 [入場料] 1000円 (1ドリンク付き)

[お申し込み] 下記の無印良品ウェブサイトにて7月16日より申し込み開始

<https://www.muji.com/jp/events/ginza/>

【編集長 プロフィール】

小野直紀 博報堂 monom 代表／クリエイティブディレクター／プロダクトデザイナー
1981 年生まれ。2008 年博報堂入社。2015 年に博報堂社内でプロダクト・イノベーション・チーム「monom(モノム)」を設立。手がけたプロダクトが 3 年連続でグッドデザイン・ベスト 100 を受賞。社外ではデザインスタジオ「YOY(ヨイ)」を主宰。その作品は MoMA をはじめ世界中で販売され、国際的なアワードを多数受賞している。2015 年より武蔵野美術大学非常勤講師、2018 年にはカンヌライオンズのプロダクトデザイン部門審査員を務める。2019 年より雑誌『広告』の編集長に就任。著書に「会社を使い倒せ！」（小学館集英社プロダクション）

monom : <http://mono-m.jp> YOY : <http://yoy-idea.jp>

【アートディレクター／デザイナー プロフィール】

上西祐理 アートディレクター／グラフィックデザイナー

1987 年生まれ。東京都出身。2010 年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業、同年電通入社、現在第 5CRP 局勤務。今までの仕事に、世界卓球 2015 ポスター（テレビ東京）、LAFORET GRAND BAZAR 2018 SUMMER (LAFORET)、FUTURE-EXPERIMENT.JP (docomo) など。主な受賞歴：東京 ADC 賞、JAGDA 新人賞、CANNES LIONS 金賞など。趣味は旅と雪山登山。旅は現在 40 力国達成。

加瀬 透 グラフィックデザイナー / アートディレクター

1987 年生まれ。埼玉県出身。メディア掲載に「アイデア No.382 グラフィズム断章：もうひとつのデザイン史」「アイデア No.377 グラフィックデザインの〈め〉新世紀デザイナー21 人の姿勢」「Google SPAN 2016」「It's Nice That」等。クライアントワーク以外にリトルプレス制作やアートワーク制作・提供、音楽制作・提供など学生時代より続けている。

牧 寿次郎 グラフィックデザイナー

1985 年岡山県生まれ。武蔵野美術大学卒業。フリーランスとして東京を拠点に活動。ビジュアルアイデンティティや告知物、本、カレンダーなどを手がける。主な仕事に、国立奥多摩美術館、エルフィッシュ、テニスコート、七尾旅人、VIDEOTAPEMUSIC、誠文堂新光社、筑摩書房など。クライアントとの対話を通じて、目に見える外側のデザインだけではなく、中身のコンテンツから魅力的にしていくことを重視している。